

おむつな△学校

☆聖マリーネ学園



R-18
FOR ADULT

〈前編〉春と夏の記録

東北おむつサークル
ふじとじん



目次

☆プロローグ☆	3
☆第一話☆ マリネ学園 学園案内	5
☆第二話☆ サヨリちゃんの通学風景	8
☆第三話☆ 春の記録 授業風景	16
☆第四話☆ 春の記録 休み時間と給食時間	24
☆第五話☆ 夏の記録 身体検査	34
☆第六話☆ 夏の記録 どきどきのプール授業	42
☆第七話☆ 夏の記録 一学期の終わりといつかの思い出	48
☆あとがき☆	56

☆ブローグ☆

これは今よりもちよつとだけ
ほんのちよつとだけ未来のお話。

おトイレの躰をのんびりと呼ぶパパやママが多くなって
オムツが外れる年齢がだんだん遅くなってしまった世界のお話です。

「・・・次のニュースです。

つい先ごろ行った調査で夜尿が治らず夜間オムツを使用している

高校生の割合が50%、△学生で80%を超え

日中もオムツを使用する生徒の割合は□学生で95%

△学生では60%となっている事が確認され

これを受け文科省は対策として・・・。」

テレビから聞こえるニュースを耳にして

テーブルの上で新聞を広げるパパと

朝御飯を作っているママがちよつと心配そうなお顔をしています。

でも、しようがありません。

だって、パパとママにも今年で6年生になる

サヨリちゃんという女の子がいて

その子は夜も昼もオムツが外れていないのですもの。

「まあ、また昼のオムツが外れる子が少なくなったのね。」

「そうらしいな。こればかりは子供を責めてもしようがないが
実に困ったものだ。」

この頃はうちのサヨリがお嫁に行く時にも
オムツをしていくんじゃないかと思つてヒヤヒヤしているよ。」
「滅多な事を言わないでよ。」

それにサヨリはしっかりとした躰で有名な

私立マリネ学園に入学しているんですもの。きつと大丈夫よ。」

「そうだな、サヨリも今年で6年生だ。

そっち以外はしっかりとした子だし、きつと大丈夫だろう。」

「それにしてもサヨリったら、日曜だと思つてお寝坊しているわね。
パパちよつと起こしてくるわ。」

だけど、パパとママは安心しています。

だって、サヨリちゃんが通う学校はここいらでも特に有名な
おトイレの躰をしっかりとってくれるとつてもすごい学校なのです。

「まあまあ、サヨリったら・・・もう。」

でも、サヨリちゃんの夜のオムツは

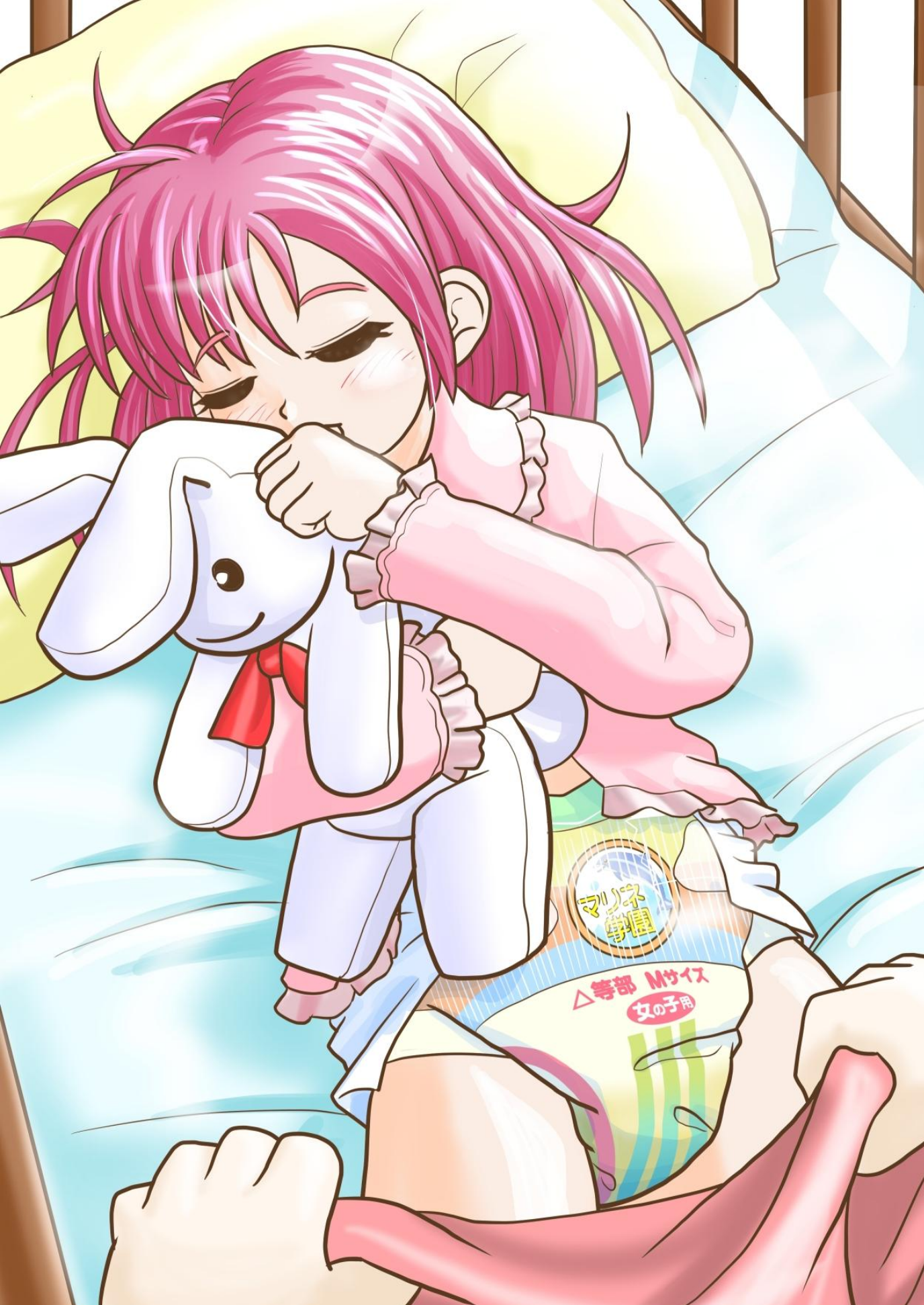
当分外れないかもしれないわね。

だって・・・ほら、サヨリちゃんったら

起こしに来てくれたママにも気づかずに

寝言を口にしながら黄色いオネシヨのサインのついた

オムツを履いたままグッスリとねんねをしているんだもの。



マリネ
学園

△等部 Mサイズ
女の子用

「う・・・うにゆ・・・ママあ・・・。」

さあ、6年生のサヨリちゃんは卒業までの一年で
お昼のオムツだけでも無事に卒業する事が出来るんでしょうか？

それじゃあ、オムツの外れないサヨリちゃんと

仲良しみんなが繰り広げる楽しいお話を始めましょうね。

☆第一話☆ マリネ学園 学園案内

私立マリネ学園案内（抜粋）

私立マリネ学園では未来を担う学生たちが
まっすぐ育っていけるような教育をモットーとしております。
特に近年遅れてきたオムツ外れへの対策に
力を入れて取り組ませていただいております
学園卒業までの昼のオムツ外れは7割、夜のオムツ外れは4割と
他校に比べはるかに高い水準を誇っております。

入学に当たって（抜粋）

以下に記された校則にはきちんと従う様に心がけて下さい。
また、ご両親の方もきちんと校則に目を通し
お子様の指導を行うようお願い致します。

- ・制服は本校指定の物のみ着用を許可する。

オムツ交換を容易にするための女子生徒用制服の
スカート前部の開いた部分

および男子生徒用制服の開いた部分を閉じる
改造、補修は禁止とする。

- ・紙オムツは学校指定のオムツを着用する事

ただし、市販の紙オムツでも学生らしさを損なわない程度の可愛らしいイラスト、模様が施されているオムツは可とする。

また、体育の際はズリ落ち防止用カバー

水泳の授業の際は専用の防水カバーの着用を必須とする。

ちなみに体育用ズリ落ち防止カバーの色は

1・2年生は赤、3・4年生は紺、5・6年生はネイビーとする。

- ・近年数を増やす過美なデザイン、イラスト

模様が施されたオムツや

学生にそぐわない高級ブランドの紙オムツ、またはカバー

露骨に露出の多いデザイン

性的な意味合いを持ついやらしい趣向のもの

学生らしさを大きく損なう類のオムツは一切を使用禁止とする。

これを破り使用してきた生徒については罰則として

没収の上、罰則用オムツにて授業を受ける事とする。

また、オムツへのアクセサリーの装着も禁止とし

これも罰則オムツの着用とする。

- ・原則として校内は紙オムツのみを使用許可とするが
アレルギー、オムツかぶれがひどいといった

身体的理由を持つ生徒に対しては申請書を提出する事でこれを許可とする。

- ・本校では独自に月二回のトイレトレーニング検定を行っておりこの検定に合格した者のみトイレの使用を許可とする。
検定に関する詳しい記述は下記に記す。

トイレトレーニング検定は

各生徒に渡したスタンプ帳のスタンプを

規定数溜めた者のみが受験資格を与えられる。

スタンプは授業中もしくは休み時間中に教師へトイレを訴え出てオムツを汚すことなく排泄できた事が確認された者に与えられる。

- ・検定はトレーニングパンツ級と

日中にオムツが外れた事を認められたマスター級があり各級の受験にはトレーニングパンツ級はスタンプ10個マスター級はスタンプ20個を必要とする。

合格した際は級ごとにそれぞれトレーニングパンツ及び

通常のパンツの着用とトイレの使用が許可となり

検定合格証となるネクタイリボンが校長より手渡され

今後は制服のスタイを外してこのネクタイリボンを装着しての登校が認められる。

ただし、検定合格者であっても

著しく不適合な行いがあつた場合は

合格取り消しとなり、前の級よりのやり直しとなる。

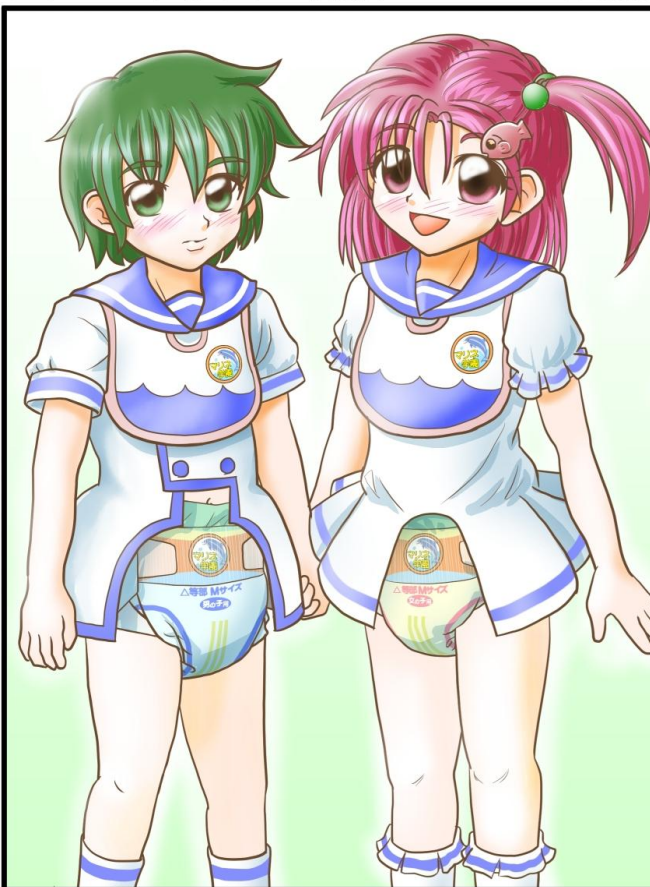
(原則、トレーニングパンツ級は
授業中の粗相5回で合格取り消し
パンツ級は同粗相2回
またはパンツの著しい染みへの指導5回にて
トレーニングパンツ級のやり直し。)

・オムツ外れへの意欲向上の為
生徒本人によるオムツ交換は禁止とする。
交換の際は教師
もしくは係を請け負っている生徒に交換をお願い出る事。
また、緊急の際は検定合格者に願い出での交換も可とする。

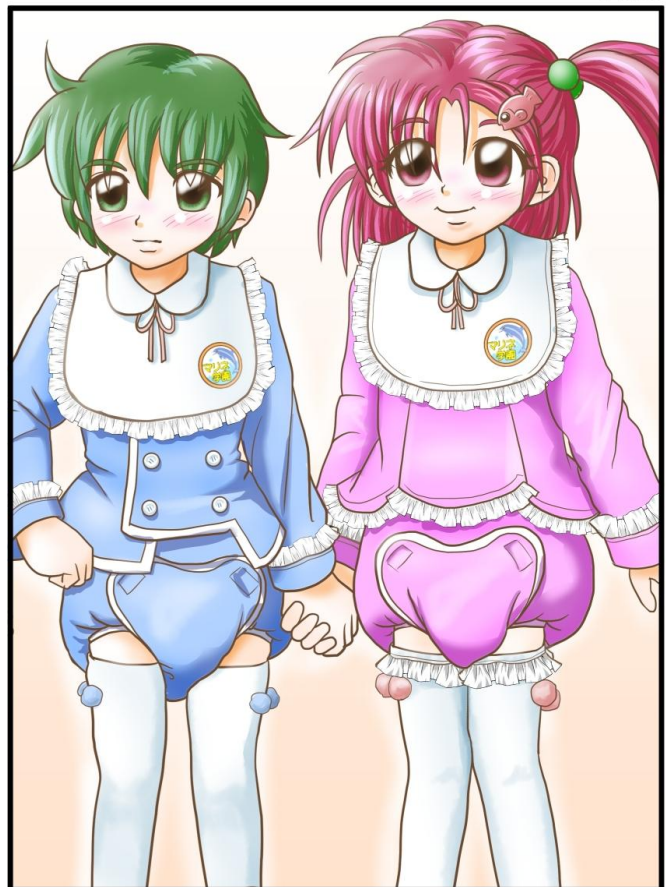
・オムツ外れが病気によって遅れる場合もあるので
本校では二か月に一度生徒への健康診断を行います。
その際には夜間使用されましたオムツを
必ず持参させるようお願い致します。

聖マリネ学園 制服

夏服



冬服



☆第二話☆ サヨリちゃんの通学風景

「うに……おはようママ……」

「おはようサヨリ、今すぐ新しいオムツに取り換えてあげるわね。」

「はぁ……」

「もう、普段はしつかりした子なのに

朝はちよつとぼんやりしているのよね。」

サヨリちゃんは朝起きるのがちよつと苦手。

いつも寝ぼけたお顔をママに見せては

ママに心配そうにため息をつかれちゃうのです。

「ほら、あんよは自分で広げなさい。」

「ううん……わかったぁ……」

ママに言われた通り

サヨリちゃんはお気に入りのウサちゃんのぬいぐるみを抱きしめたまま、目覚めたばかりで

まだ重たい足をゆつくり広げていきます。

そしてママはサヨリちゃんの足が開かれて

オムツ交換の準備が整うと

慣れた手つきで手早く

サヨリちゃんのオムツを外して

オネシヨで汚れたサヨリちゃんのおまたを

これまたサヨリちゃんお気に入りの

ウサちゃんのマークがついた

お尻拭きで優しく拭いてあげるのです。

「んうう……すつきりするう……」

オシッコで汚れて気持ち悪かったお尻がきれいになって寝惚けまなこのサヨリちゃんも何だかとても嬉しそう。

「ふう……さすがに小さい時みたいに

楽に交換は出来ないわね。」

一方のママは、さすがにちよつと疲れたみたいです。

それは無理もない話よね。

だって、サヨリちゃんのママがオムツの交換をしているのは小っちゃな赤ちゃんじゃなくて

それよりずっとずっと大きな6年生の女の子だもん。

「それに、オネシヨの量が多くなってきたわね……

今度から大きなオムツかノリカちゃんみたいに

布のオムツにしようかしら。」

おまけにオネシヨの量だつてかなりのもの。

おまたを拭き終わり

ママがサヨリちゃんのお尻から外した紙オムツを手にとると

一晩中のオネショを受け止めたオムツは

ぶら下げたら吸いきれないオシッコが

今にも垂れてきちゃいそうなくらいパンパンです。

ママもサヨリちゃんが大きくなるのは確かに嬉しいけれど

オネショの量までこんなに立派に成長されては

さすがに困ったお顔になってしてしまいます。

「ふにいいい・・・むにゅむにゅ。」

でも肝心のサヨリちゃんはまだムニムニユと

眠そうにしている

このままベッドにいたらもう一度ねんねをしちゃいそう。

「はあ・・・この子つたらもう・・・」

卒業までは昼のだけでも外れてね。私の可愛いねぼすけ娘。」

そんな6年生としてはちよつと頼りなく見えちゃう

サヨリちゃんにママは学校指定のオムツを当てて

ほつぺをチョンチョンとつついて起こしてあげると

やれやれと一息ついて階段を下りていくのでした。

でもね、確かに大きくなったサヨリちゃんの
オムツ交換は大変そうだけど

何だかオムツ交換をしている時のママは
ちよつとだけ嬉しそうにも見えるの。

きっとママにとつてはどんなに大変な事だとしても

いつまでも自分の子をお世話出来るのは

とっても嬉しい事なんでしょうね。



「ふわああああ・・・。」

ようやくベッドから起きたサヨリちゃんは
ちよつと危なっかしい足取りと、まだまだねぼすけな
お目目をしたまま階段を下りて洗面所へと向かいます

バシヤバシヤバシヤ

「ううん。さっぱりしたあ。」

さあ、ママのお手伝いに行こうと。

だけど、そんなねぼすけさんのサヨリちゃんはこちらまで。

いつもしているように、冷たいお水でバシヤバシヤお顔を洗えば
サヨリちゃんのお目目と頭はパツチリと目覚めちゃうのです。

「おはようママ。朝御飯手伝うね。」

「ようやくちゃんと目を覚ましたのね。」

じゃあ、サヨリはパパのお弁当お願い。」

「はい。」

ボサボサしていた髪をちゃんと整えて、学校の制服へと着がえれば
さつきまでのねぼすけの女の子はもうそこにはいません。

テキパキとママのお手伝いをするサヨリちゃんの姿は、さすが6年
生のお姉さんと言えるほどにしっかりしていました。

もちろんお手伝いじゃなく自分の事だって
サヨリちゃんはバツチリ大丈夫。

ママのお手伝いなんて無くても学校へ行く準備もしっかりしていて
朝御飯を食べてからちよつと休む事が出来るくらいの余裕をもって
学校へと向かう事が出来ちゃうのです。

「ママ、行ってくるね。」

「いつてらっしゃい。」

そうだ、お隣のイサキ君に昨日は重たい荷物を
持ってくれてありがとうって言うておいて。」

「うん、いいよ。」

そしてパタパタとお気に入りの靴に足を通して
元気良く玄関を飛び出た

サヨリちゃんはお隣に住んでいる、小さい頃から
大の仲良しのイサキ君のおうちへと向かいます。

「イサキくん、一緒に学校に行こ。」

サヨリちゃんがイサキ君のおうちの前で
大きな声でイサキ君を読んでみると
イサキ君のママの声がおうちの中から大きく響きます。

「イサキ！ サヨリちゃんが迎えに来てくれたんだから早く準備して学校に行きなさい！」

「わ、わかってるよ。ただでさえ手間取ってるんだからうるさく言うなって。」

「手間取っているのは

イサキが5年生にもなつてオムツからはみ出すくらいおっきいオネショしてお布団をダメにするからでしょう。」

「わっ、バカ！ サヨリに聞かれたらどうすんだよ！」

おうちの中から聞こえるイサキ君と

イサキ君のお母さんのやり取りがおかしくて、サヨリちゃんは声に出さないようにクスクスと笑っちゃいます。

そしてしばらく待っていると

よっぽど急いで向かってきたのでしょう

イサキ君が息を切らせながらサヨリちゃんが待つ

玄関へとやって来ました。

「わ、わりい、サヨリお待たせ。」

「そんなに急がなくても大丈夫だよ、イサキ君。

まだ学校に行くのには時間があるもの。

あゝあ、急いで出てきたから制服とオムツも

ヨレヨレになっちゃってる。ほら、私が直してあげるね。」

でも、あんまり急いでやって来たせいで

イサキ君の制服やオムツは、しつかりしたサヨリちゃんの制服と比べてヨレヨレとしていてちよつとだらしがありません。

そこでサヨリちゃんはイサキ君の制服とオムツを丁寧に整えてあげようとするのですが・・・

「なっ！ サヨリ、止めろって！」

「え、何で？ 恥ずかしがる事なんて無いのに。

小っちゃい頃から直してあげてるでしょ？」

イサキ君は何故か

サヨリちゃんが制服やオムツを整えてあげようとするとその手を避ける様に逃げてしまうのです。

何でイサキ君がそんなに学校の制服を直してあげる事を

嫌がるのか不思議で、サヨリちゃんはイサキ君に聞いてみると

イサキ君は顔を真っ赤にしなが

サヨリちゃんへひどいことを言い放つのでした。

「そ、それは・・・6年生にもなつて昼のオムツの外れない

サヨリにオムツ触られたら俺まで外れなくなるからだよ！」

「ひどおい。小っちゃい頃は

サヨリお姉ちゃんサヨリお姉ちゃんって言って可愛かったのに。

そんなひどい事言うイサキ君なんてもう知らない！

私一人で学校に行くもん！」

さすがにこんな事を言われたら
優しいサヨリちゃんだって怒っちゃいます。

サヨリちゃんはぷうっと頬を膨らませると
イサキ君に「ふんっ！」と背を向けて
一人で学校へと行ってしまおうのです。

でも、何でイサキ君はサヨリちゃんに
あんなひどい事を言ったのでしょうか？



「ああ・何で俺あんな事言っちゃったんだろ・・・
ただ、サヨリにオムツ直してもらうのが
恥ずかしかっただけなのになあ。」

あら？ 仲良しの女の子にいついヒドく当たっちゃうなんて
どうやらイサキ君はサヨリちゃんよりも
ちよっとだけ早く難しいお年頃になっているのかもね。

イサキ君は怒って先に行っちゃったサヨリちゃんの元へ
急いで向かうと

必死でさっきのひどい言葉を謝り続けるのでした。

ウフフ。大丈夫よ、イサキ君。

優しいサヨリちゃんはきつと許してくれるから。

だけど、イサキ君はもつと素直な心になるようにしないとダメよ。

その後サヨリちゃんは

ちゃんと謝ってくれたイサキ君を許してあげると

再びイサキ君と一緒に仲良く学校へと向かいます。

見ての通りたまにはケンカもするけれど

サヨリちゃんとイサキ君、二人はいつだって大の仲良しなのです。

そして、二人にはまだ仲良しのお友達がいます。

ほら、目の前にある通学路で二人を待つ三人の生徒達です。



「おはようございます。サヨリさん、イサキさん。」

「サヨリ先輩にイサキ先輩。おはようございます。」

「イサキおにちゃんにサヨリおねえちゃん、おはよー。」

肩までかかる長い髪をしてメガネをかけている

大人しそうな女の子が

4年生の波場 ノリカちゃん

そして小さい身体で元気いっぱい二人にあいさつした

髪をツインテールに結んだ女の子が二年生の蛭井 カンナちゃん。

最後に礼儀正しくサヨリちゃんとイサキ君を先輩と呼んだ

髪が金髪の男の子が

カンナちゃんと一緒のクラスの二年生 赤井 オクト君です。

ちなみにカンナちゃんとノリカちゃんは

オムツが外れていないけど

オクト君は2年生なのにもうパンツが履けるマスター級まで

合格した優等生なのです。

五人はこの地区ですつと一緒に仲良し5人組。

学校に行く時はいつだってみんな揃って通学をしています。

中でもサヨリちゃんは一番のお姉さんなので

よくみんなのお世話をしているのです。

「カンナちゃん、今日はちゃんとお尻拭き持ってきた？」

「うん、サヨリおねえちゃんがわすれないようにって

メモくれたからカンナわすれなかったよ。

えらい？ えらい？ カンナえらい？」

「うん、偉いよ。カンナちゃん。」

「わーい。カンナ、サヨリおねえちゃんにほめられちゃった。」

今日もサヨリちゃんはみんなのお世話で大忙し。

そんなみんなのお姉さんでもある

サヨリちゃんの事をみんなとつても大好き。

もちろんサヨリちゃんだってみんなの事が大好きです。

みんなはいつだって仲良しの5人組。

今日もワイワイ楽しくおしゃべりしながら

学校へと向かいます。

さあ、今日はいったいどんな素敵な一日になるんでしょう？

つづく